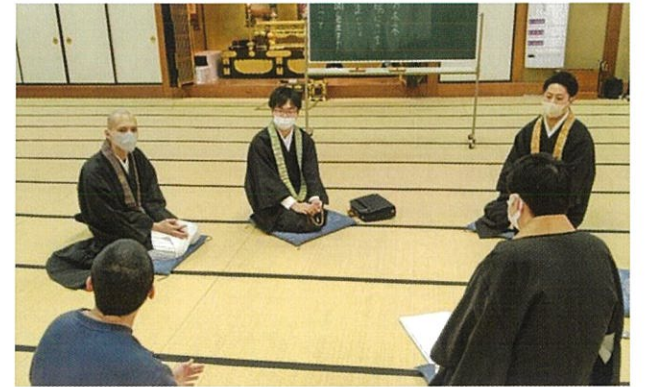


### 仏青報恩講

二〇二三年一月二十三日、  
仏青報恩講が執り行われま  
した。

お勤めは正信偈真四句目  
下念仏和讃五洵です。「初め  
から学ぶ声明作法」で学んで  
いることをふまえ、一つひと  
つ丁寧にかつ、目一杯の大き  
な声で勤めました。

その後の座談会では、いま  
気になっていることをそれ  
ぞれがテーマとして出し合  
って話し合いました。



お寺の今後のことや、どん  
な座談会が理想かという疑  
問、病気や死の問題など、難  
しいテーマもありながらも、  
終始なごやかな雰囲気とし  
た。

与えられたテーマではな  
く、参加者自身の関心のある  
テーマで座談ができるので、  
話も盛り上がり、仲もより深  
まりました。

### 北陸連区

### ソフトボール大会

二〇二二年九月八日、北陸  
連区ソフトボール大会が、金  
沢市にある専光寺ソフトボ  
ール場で開催されました。

コロナ禍以来、中止が続き  
三年ぶりでした。参加者が少  
ないこともあり、他教区との  
混合チームが多かったです  
が、様々な人たちとの交流に  
もなりました。



### 編集後記

二〇二三年七月から、小松  
教区と大聖寺教区は合併し、  
小松大聖寺教区が誕生しま  
す。「小松教区仏教青年会」  
も「小松大聖寺教区仏教青年  
会」として生まれ変わる予定  
です。

現在、小松仏青は若手僧侶  
の集う場となっています。生  
活や法務の中で感じている  
こと、悩んでいることを気軽  
に話せる場になることを願  
い、学習会を開くなど様々な  
活動をしてきました。

小松仏青を通じて、小松の  
僧侶だけではなく、門徒さん  
たちや全国の若手僧侶と出  
会うこともできました。

今後は、旧大聖寺教区の方  
々や僧侶以外の方々とも  
より一緒に学び合えればう  
れしいです。ぜひお気軽にお  
声かけください。

(会計 和楽 賢章)

# ぶっせい

No.9

## 三年間を振り返って

小松教区仏教青年会 面 俊

三年前、会長に任命してい  
ただいた時は、コロナ禍の真  
っ只中であり、今まで通りの  
活動が難しい時でした。幸い  
Zoomというインターネ

ットで話せる方法があり、  
『同朋新聞を読む会』と報恩  
講だけは三年間を通じて行  
うことができました。直接顔  
を見て話し合えない三年間  
を過ごす中で、人と会う大切  
さを強く感じました。

コロナが五類感染症に移  
行して、コロナ禍以前の活動  
状態に戻りつつあります。

七月から小松教区仏教青  
年会は、小松大聖寺教区仏教  
青年会になり、役員も新しく  
変わります。

仏教青年会は、僧侶だけが  
会員ではありません。親鸞聖  
人の教えを通して、青年の交  
流を深める事を目的に活動  
する会ですので、興味がある  
方はどなたでもご参加くだ  
さい。

人が気軽に集い、話し合え  
る場を開いていきたいと思  
っています。

## 初めから学ぶ声明作法



「初めから学ぶ声明作法」  
という講座を全七回にわた  
って行いました。新しく若手  
僧侶が増えたこともあり、基  
礎から学ぶ場を作りたいと  
考え始めました。

講座では、正信偈真四句目  
下、念仏和讃五洵、伽陀、御  
文、葬儀式、装束の着方や畳  
み方、キンや音木の打ち方、  
出仕作法など、幅広い内容を  
実践しながら学びました。

小松教区声明会会長の畑  
大さんに講師をお願いし、初  
心者にもわかりやすく、丁寧  
に教えていただきました。で  
きているつもりでできてい  
ないことが多いことにも改  
めて気づかされました。

この講座を通して、儀式へ  
の取り組み方を見直すと同  
時に、僧侶同士の交流のきつ  
かけにもなりました。



### 公開学習会

## お坊さんって？

二〇二三年の四月から六月まで、全三回の連続公開学習会を行いました。

仏青では二〇一八年度から、「僧侶とはなにか」、「僧侶としてなにをするのか」を、会員である若手僧侶が法話形式でお話する学習会を継続して開いています。今年度は、三名の方にお話いただきました。



第一回は、予定していた担当者の体調不良のため、急遽小松教区駐在教導の寺本菜都奈さんをお願いしました。おかみそり（帰敬式）の際に落とすとされる三つの「もどどり」（名聞・利養・勝他）について、ご自身に問われていることを話されました。第二回は、小松市西町にある称名寺住職の佐々木祐さんが担当しました。

祐さんは、「亡くなった父が何を願って僧侶をやっていたか」を探すために僧侶をしていると話されました。「自分は弱い人間だ」と飾らずに吐露されていたことも印象的でした。

第三回は、能美市粟生町にある迎巖寺若院の佐々木浄浩さんが担当しました。浄浩さんは、「小さい頃から門徒さんたちに可愛がられたおかげで、僧侶になるのが嫌だとは思わなかった」と話されました。その上で自身の聞法の姿勢を省みていることを話されました。

お話の後は毎回、座談会を行いました。参加者の門徒さんたちから「お坊さんも同じ人間なんだから、分からないときは『分からないから一緒に考えましょう』と素直に言えば大丈夫」という心強い声もありました。「僧侶はこうあるべき」とすぐ握ってしまいう自分に気づかされました。

### 同朋新聞を読む会

『同朋新聞』を読みながら、気になったことや日頃の悩みなどを語り合っています。

コロナ禍以来、リモート形式での座談会になっていましたが、今年度からは対面に戻し、お寺で開いています。

興味のある方はお気軽にご参加ください。  
日時 毎月第一日曜日  
午後七時半～九時頃  
会場 光玄寺  
(小松市串町一)



## 豪雨被害ボランティア

二〇二二年八月四日の豪雨災害により、小松市中海町の亮光寺さんが被害を受けました。

本堂は無事だったものの、庫裏は床上浸水し、泥だらけになっていました。どこから手をつければいいのか分からないような酷い状況でした。仏青メンバーだけではなく、有志の僧侶や門徒さんたちの協力もあり、浸水した家財道具の運び出しや泥かきを五日間かけて行いました。



小松での災害は初めての経験で分からないことだらけでしたが、様々な方に教えていただきながら作業を行いました。それを通して、被災地での注意点も学びました。

① 被災地の状況やニーズを確認し被災者に配慮する

空きスペースに家財道具をまとめておき、捨てる・捨てないの判断は被災者本人に任せるなど、配慮をしながら作業にあたりました。

② 健康管理や安全対策

暑さ対策のため、作業は午前中だけにしたり、土ぼこりから目や鼻、喉を守ったりすることも必要でした。泥のなかに隠れた物を踏んでケガをしてしまう参加者もいて、細心の注意を払わなければならないと感じました。



ボランティアをしたい気持ちがあっても、自分の体調を考慮しないと、かえってご迷惑をおかけする場合もあるので、安全を第一にすることが大切だと感じました。



### 【参加者の感想】

作業の中で何度も「まさかこんなことが」と聞く中で、『白骨の御文』の「今日ともしらず、明日ともしらず」が身になっていない自分の現実を改めて知らされました。町内の方やボランティア、土木・建築関係の方々などと話し合い、教えていただき、協力して作業を行う中で、人となりがあがるからこそ普段の生活が成り立っているのだと感じました。

教えていただいた知識は忘れず、しかしこれ以上活用する機会がないことを願ってやみません。

(副会長兼事務局 松永悠)